

東条川疏水ネットワーク博物館構想

～地域の手で次世代のために水の恵みを活かす～

平成24年3月

東条川疏水ネットワーク博物館研究会

目 次

はじめに	1
第1章 背景とねらい	2
1-1 背景	2
1-2 ねらい	3
第2章 基本的な考え方	4
2-1 考え方の3つの柱	4
2-2 実現のための取組方針	5
第3章 実現のためのアクションプログラム	6
3-1 東条川疏水を核として地域の人々が学習の場として活用	7
3-1-1 資料収集・整理	8
3-1-2 水系・水利などの把握	9
3-1-3 聞き書き	10
3-1-4 教材の作成	11
3-2 地域の他の取り組みとの相乗効果による普及・波及	12
第4章 実現に向けたロードマップ	12
4-1 全体スケジュール	13
4-2 推進体制	14
参 考	15
1 検討の経過	15
2 この提案をつくるために協力してくださった方々(平成24年3月31日現在・敬称略・所属は会議時)	16

はじめに

農は国の礎である。農が衰えても栄えた国は、これまでの世界の歴史では例がない。その理由は、農業が国民に食料を供給するだけでなく、農地や水に関係して国の財産や環境を守っているからである。農業や農村は、地域の生態系や生物多様性の保全、洪水防止、地下水涵養などの多面的機能を有しており、山林や里山とともに、上流側の農山村地域だけでなく、下流側の都市域住民の財産や環境も守る機能を有しており、こうした多面的機能を維持することが今後の大きな課題である。

農業にとって、水は欠かすことができないものである。しかし、日本列島の地形は急峻で、河川の流れは急であり、その利用はなかなか容易ではない。しかも地球温暖化による降雨形態の変化や地球規模での砂漠化の進行などにより、水資源は枯渇する方向にあり、農業用水を含めた水資源確保は今後の大きな課題である。

東播磨地域は瀬戸内気候であるため、比較的降水量が少なく、農業用水はこれまでため池に頼ってきた。戦後の食料増産に向けた新たな水源を確保するために、鴨川ダムが建造され、その農業用水を配るための東条川疏水が建設された。しかし、最近における過疎化・高齢化による地域農業の衰退や、混住化による地域住民における非農家の増加によって、本地域における「水の恵み」に対する認識が薄れつつあると考えられる。

こうした現状を鑑み、上記の2つの課題を解決するためには、「地域の手で次世代のために水の恵みを活かす」活動が必要であると考え、東条川疏水ネットワーク博物館研究会を昨年6月に発足させた。これまでの約10ヶ月間に3回の研究会及び合計5回の各地域座談会を開催して、「地域の手で次世代のために水の恵みを活かす」ための東条川疏水ネットワーク博物館構想をまとめたものである。本構想が、少しでも本地域に恵みをもたらしてくれることを期待してやまない。

東条川疏水ネットワーク博物館研究会

会長 内田一徳

(神戸大学大学院農学研究科研究科長・農学部長・教授)

1-1 背景

●長らく水に苦勞した東播磨地域

東播磨地域は日本でも特に雨の少ない地域で、河川の利水も制限されていたために、日本有数のため池密集地帯として知られています。

かつて、この地域に暮らす人々は自分たちの生活を支えるために用水や池をつくるなど、水を得るための工夫や努力を積み重ねてきました。しかし、現在確認できる江戸時代以前の記録でも、水争いが絶えない地域であったことが伺えます。

●大切な水を地域に届ける「東条川疏水」

このように長らく水に苦勞した東播磨地域において 1928 年（昭和 3 年）に昭和池築造が始まり、1949 年（昭和 24 年）には戦後初めての国営事業として鴨川ダムが着工しました。鴨川ダムが完成した 1951 年（昭和 26 年）には、地域に水を届ける幹線水路の建設が始まりました。

●戦後復興の象徴「開拓地」へ水を届ける「東条川疏水」

また、戦後の「緊急開拓事業」による草加野万勝寺地区の開墾地や嬉野地区は台地上にあるために厳しい状況でしたが、1958 年（昭和 33 年）に 400ha にも及ぶ開拓地に鴨川ダムの水をポンプで汲み上げて送れるようになり生活が安定しました。

●高度な土木技術が集結する「東条川疏水」

東条川疏水には、昭和池や鴨川ダムはもちろん、建設当時の土木技術では不可能とされた「船木池」のアースダム、当時の土木技術の粋が集積された「安政池」、大きな谷を渡る 1,087m もの曾根サイフォンや、水を公平に配分する六ヶ井円筒分水など、高度な土木技術が集結しています。そして、今日では播州米のほか、酒米の「山田錦」を産するなど、優良農業地域へと大きく変貌しました。



鴨川ダム



曾根サイフォン

1-2 ねらい

●地域の手で東条川疏水をより良い形で次世代に引き継ぐ

このように先人たちの大変な努力と苦勞によってつくられた東条川疏水によって、現在の地域の水田や生活の水の活用がされています。しかし、昭和初期当時の様子を知る人は21世紀に入った現在、数少なくなっています。また、東条川疏水によってもたらされている水の恵みについて実感を持って感謝する世代は少なくなっている状況です。

いま、私たちの社会は、社会システムや経済システムの全般にわたって、これまで経験したことのない規模での大変革を迫られています。大気、水、生態系などの劣化は地球規模で急激に進行しつつあります。もはや大量生産・大量消費・大量廃棄を基軸とする現代の経済システムは、このままでは持続できないことが明らかになってきました。

これまでの経済システムを見直し、地球上の限りある資源を共有しながら持続可能な社会を築いていくというまったく新しい方向性が求められています。

次世代は、地球環境や経済問題において、さらに厳しい状況となることが予想されます。そのため地域資源を見つめ直し「地域」にできること、「地域」がなすべきこと、そして、地域の大切な資源である「東条川疏水」を核とした地域づくりなどについて共に考えていくべきではないでしょうか。

また、昨今の多発する災害予防の観点からも、まず、地域の人々が現在の地域の資産である「東条川疏水」についての認識を深め関心を高めることにより、災害防止につながります。

現在、既に地域の持つ力を活かし、活動をつなげ、結びつけることにより、「東条川疏水」には疏水にまつわる水と人、人と人とのネットワークの力を高めることにより、「地域の手で次世代のために水の恵みを活かす」ことをめざします。

また、この「東条川疏水ネットワーク博物館構想」が、隣接地域(加古川西部地区外)へ効果的な波及を及ぼし連携による相乗効果によって、次世代へより良い地域を引き継ぐことを目指します。



第2章 基本的な考え方

2-1 考え方の3つの柱

① 「東条川疏水」の名前を地域や地域外に定着させる

「東条川疏水」は、それぞれの水利施設が段階的に整備され完成し、また、日常生活の中で私たちの目にする施設が「昭和池」、「鴨川ダム」、などそれぞれ独立したものとして捉えられており、この地域全体の水利施設全体のネットワークを示す名称が明確に認識される機会がありませんでした。この構想においてこの地域の水利施設全体のネットワークを「東条川疏水」として位置付け、今後は、この「東条川疏水」という名称が核となって地域の人々やその活動をつなげ・むすびつけるキーワードとして地域や地域外に定着させます。

② 地域を担っていく次世代を育てる学習の場として活用する

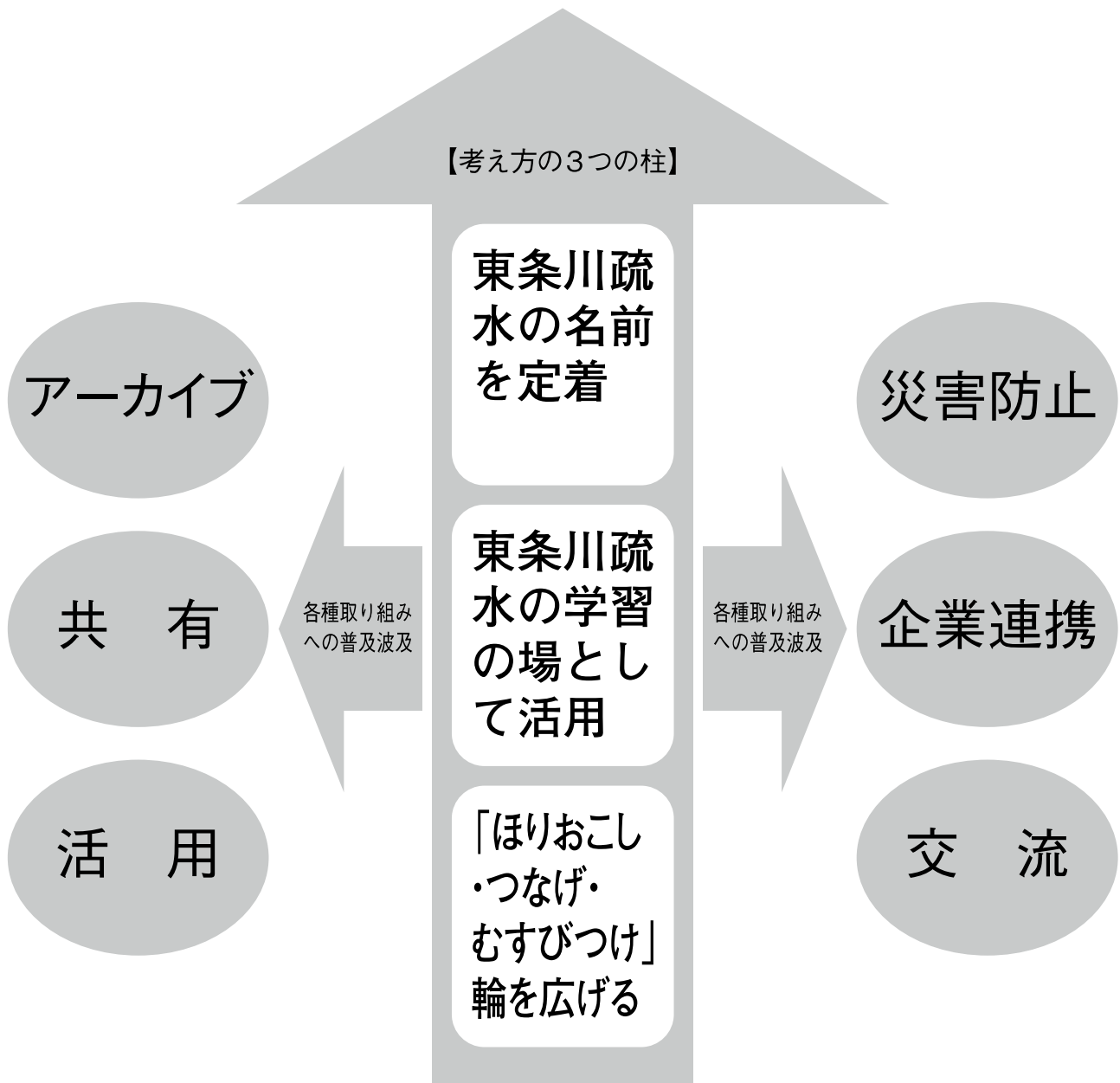
特に、地域のことを教材として、地域の持つ「教育力」を最大限に活かし、今後、地域を担っていく次世代を育てる学習の場として活用します。そのために、地域の子供たちが学校などで地域のことを学ぶ際に活用できる教材等を充実させます。また、「学校教育」のみでなく「社会教育」の場面において大人も地域を学べる機会を設けます。

③ 既にある資源や活動を「ほりおこし・つなげ・むすびつける」ことにより取り組みの輪を広げる

ハード面での「東条川疏水」は、現代の私たちにとって決して「新しく作られる施設」ではなく、以前から地域に馴染んだ施設です。この「東条川疏水ネットワーク構想」では、その「既に地域にある、地域にとって大切な施設」を改めてみつめ、魅力を掘り起し、それぞれの水利施設をつなげ・むすびつけて考える「東条川疏水」のネットワークという視点で、再発見し、共有し、活かします。

また、ソフト面での活動や取り組みについても、既に地域にある活動や取り組みを「ほりおこし・つなげ・むすびつける」連携によって「東条川疏水」を地域の人々にとって楽しめる場、誇りを持てる場として取り組みの輪を広げます。

【ねらい】
地域の手で東条川疏水を次世代に引き継ぐ



【背景】

長らく水に苦勞した東播磨地域

大切な水を地域に届ける疏水

戦後復興の象徴「開拓地」

高度な土木技術が集結する

播州米・酒米の「山田錦」を産する優良農業地域へ変貌

2-2 実現のための取組方針

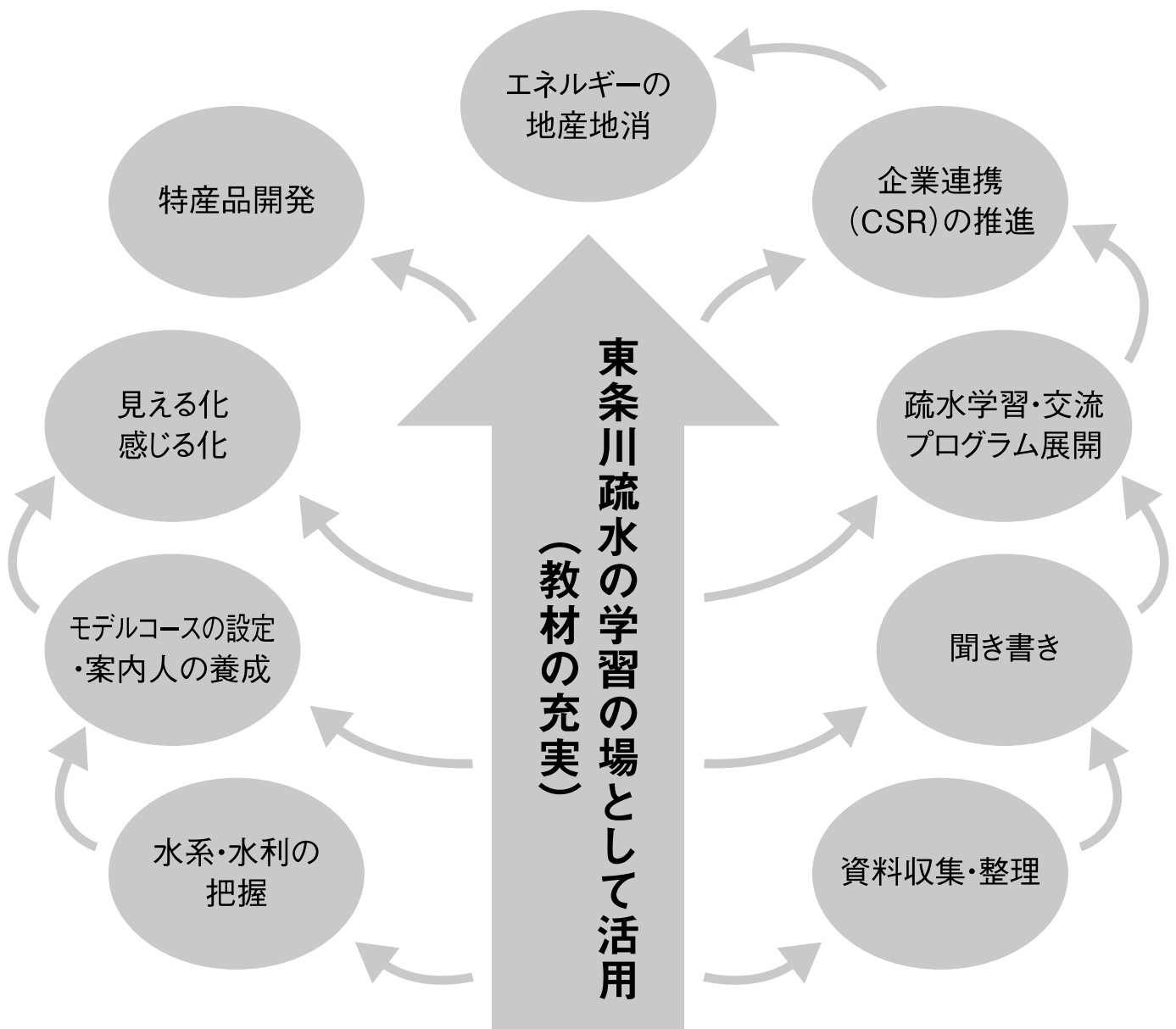
考え方の3つの柱を軸に、以下の取組み方針に基づいてアクションプランを実施します。

① 東条川疏水を核として地域の人々が学習の場として活用

「東条川疏水」を地域の学校教育教材、社会教育教材として活用をすることにより、理解の促進を進めます。

② 地域の他の取組みとの相乗効果による普及・波及

東条川疏水の教材としての活用を中心に取組みを進める中で、様々な地域資源や活動、取組みを「ほりおこし・つなげ・むすびつけ」輪を広げ、相乗効果による普及・波及を目指します。



図：取組み展開イメージ図

第3章 実現のためのアクションプログラム

3-1 東条川疏水を核として地域の人々が学習の場として活用

東条川疏水の持つ魅力を活かし、地域内外や次世代が学習の場として活用するために、以下のプログラムを実施します。

“学習の場として活用する” 4つのアクション

効果

1. 資料収集・整理

- ・東条川疏水に関する情報（ソフト）の把握と整理
- ・ホームページ等のコンテンツとして活用

2. 水系・水利などの把握

- ・東条川疏水に関する情報（ハード）の把握と整理
- ・ホームページ等のコンテンツとして活用

3. 聞き書き

- ・地域の記憶を記録
- ・ホームページ等のコンテンツとして活用

4. 教材の作成

- ・学校教育（副読本、DVD、模型キットなど）
- ・社会教育（マップ、パネル、案内表示など）

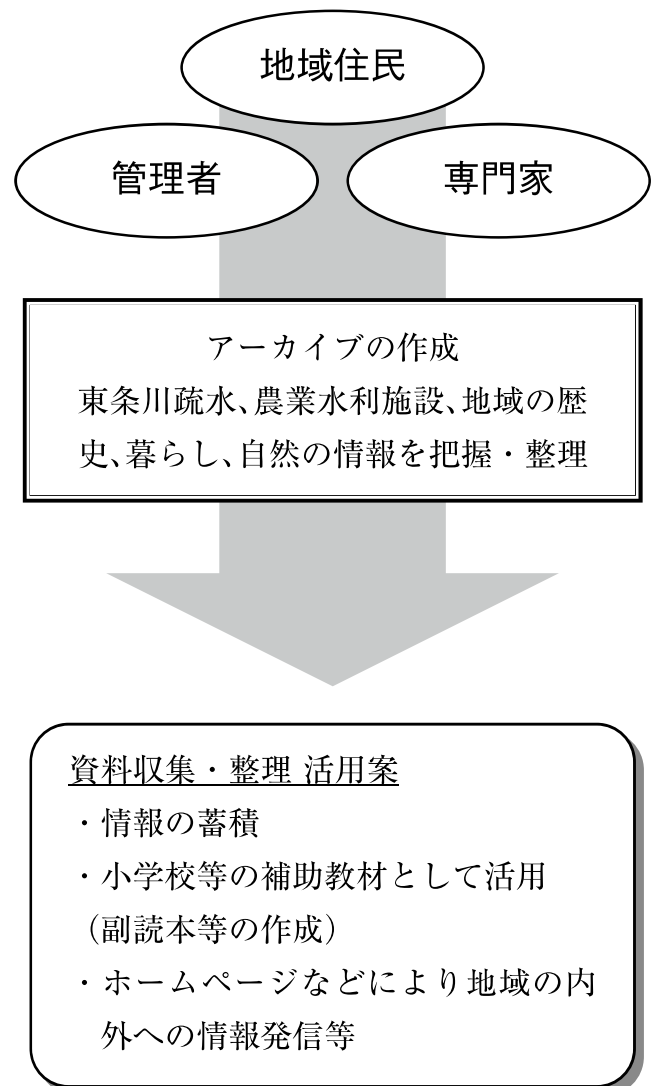
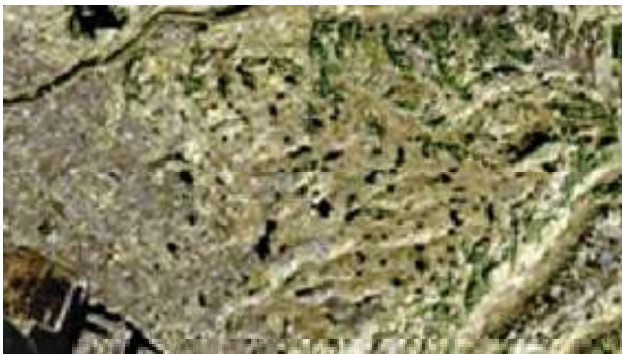
3-1-1 資料収集・整理

■ 概要

- 国や県など管理者や専門家より東条川疏水や周辺地域に関する情報を収集し、整理を行い、アーカイブに活かす。
- また、地域住民や地域の公共施設等に保管されている資料を収集し「東条川疏水の価値」について整理する。
- 地域の行事を整理し疏水に活用できるものと連携を図る。
- 地域の人材を発掘し活用方法を検討する。

■ 効果

- 東条川疏水に関する情報(ソフト)を把握・整理し、ホームページや補助教材のコンテンツとして活用する。



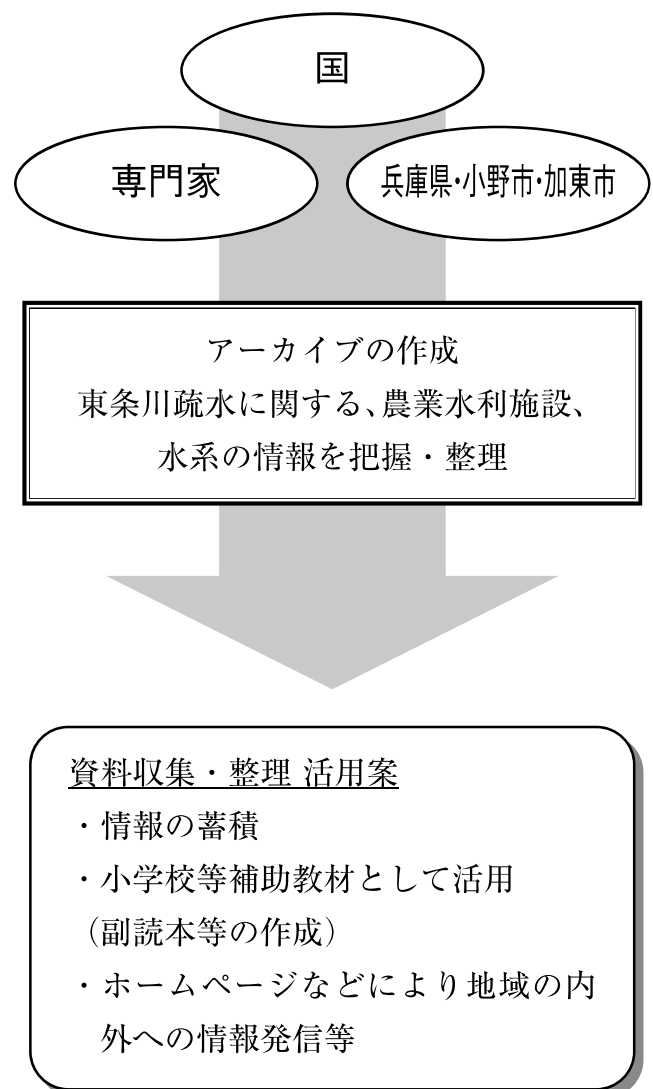
3-1-2 水系・水利などの把握

■ 概要

- 国や県など管理者や専門家より東条川疏水の水系や水利に関する情報を収集、整理し、アーカイブに活かす。
- また、地域住民や地域の公共施設等に保管されている歴史的資料を把握・整理する。
- 疏水めぐりを実施し地域住民、子供たちの施設への理解を高める。

■ 効果

- 東条川疏水に関する情報(ハード)を把握・整理し、ホームページ等のコンテンツとして活用する。
- ため池や水路の洪水等危険情報の把握と防災意識の向上に寄与する。



3-1-3 聞き書き

■ 概要

- 地域の古老などに「思い出」や「地域と東条川疏水との関わり」、「言い伝え」などのヒアリングを行う。また、「写真」や「文献」などが現存する場合は出来るだけ、活用しアーカイブを作成。
- 土木の専門家などから「高度な土木技術の価値」についてヒアリングを行い、アーカイブに活かす。

■ 効果

- 地域の記憶を記録としてまとめ、ホームページ等のコンテンツとして活用する。
- 地域の世代間交流のきっかけとなる。



【参考：森の聞き書き甲子園】

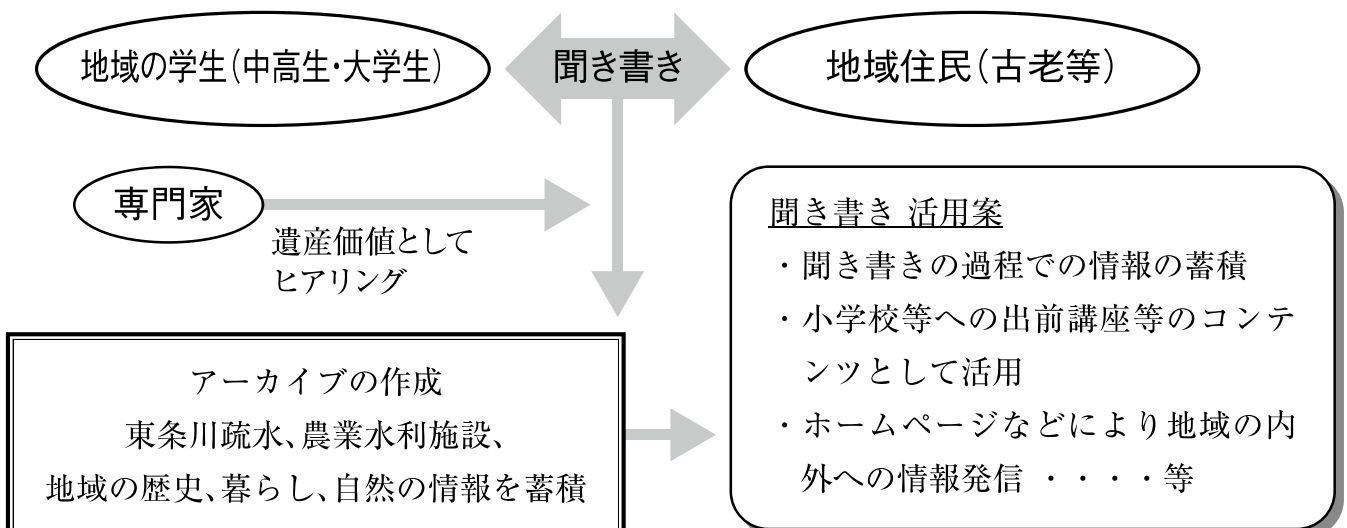


森の「聞き書き甲子園」は、全国の高校生に呼びかけて開催している。

高校生は、造林手、炭焼き職人、木地師、漁師、海女など、自然と関わるさまざまな職種の“名人”を訪ね、一対一で「聞き書き」を行う。

「聞き書き」とは、話し手の言葉を録音し、一字一句すべてを書き起こして、文章にまとめる手法で、仕上がった文章からは、話し手の語り口や人柄が浮かび上がる。この「聞き書き」を通して、参加高校生は名人の持つ知恵や技、その生きざまやものの考え方を学び、受けとめる。

出典：第10回聞き書き甲子園HP



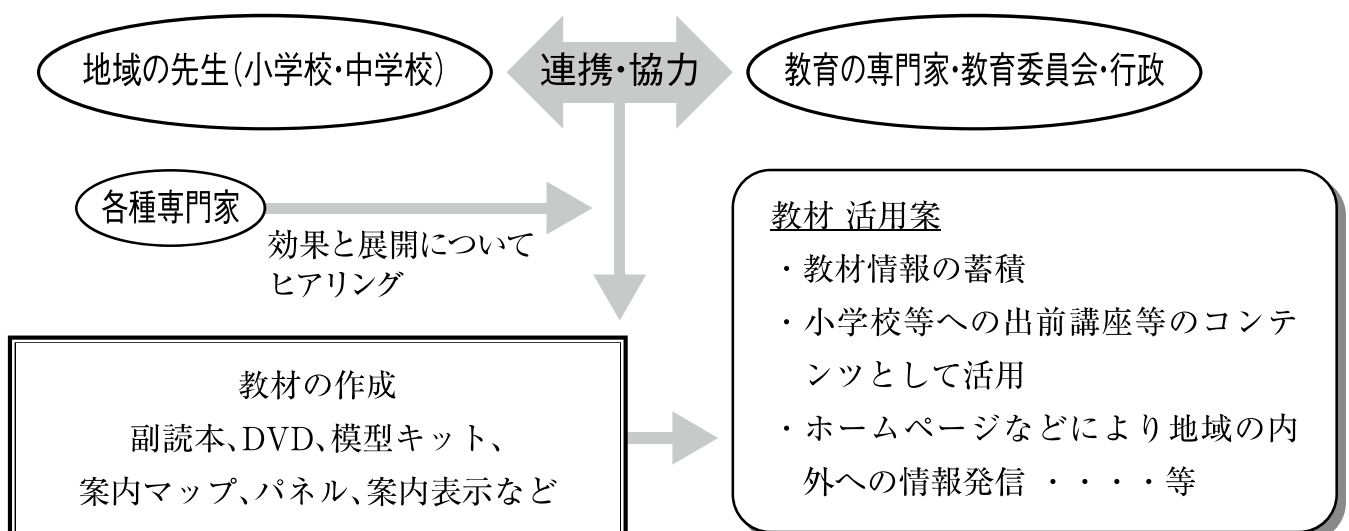
3-1-4 教材の作成

■ 概要

- 「資料収集・整理」や「水系・水利などの把握」、「聞き書き」などの取り組みの成果を活かし教材の作成を行う。また、「既存の取り組み」や「活動団体」などが存在する場合は出来るだけ、連携し教材を作成。
- 地域の教育委員会や教職員などから構成される「(仮称) 東条川疏水教材作成研究会」を設け、教材の内容及び進め方、役割分担について検討を行い、作成に活かす。

■ 効果

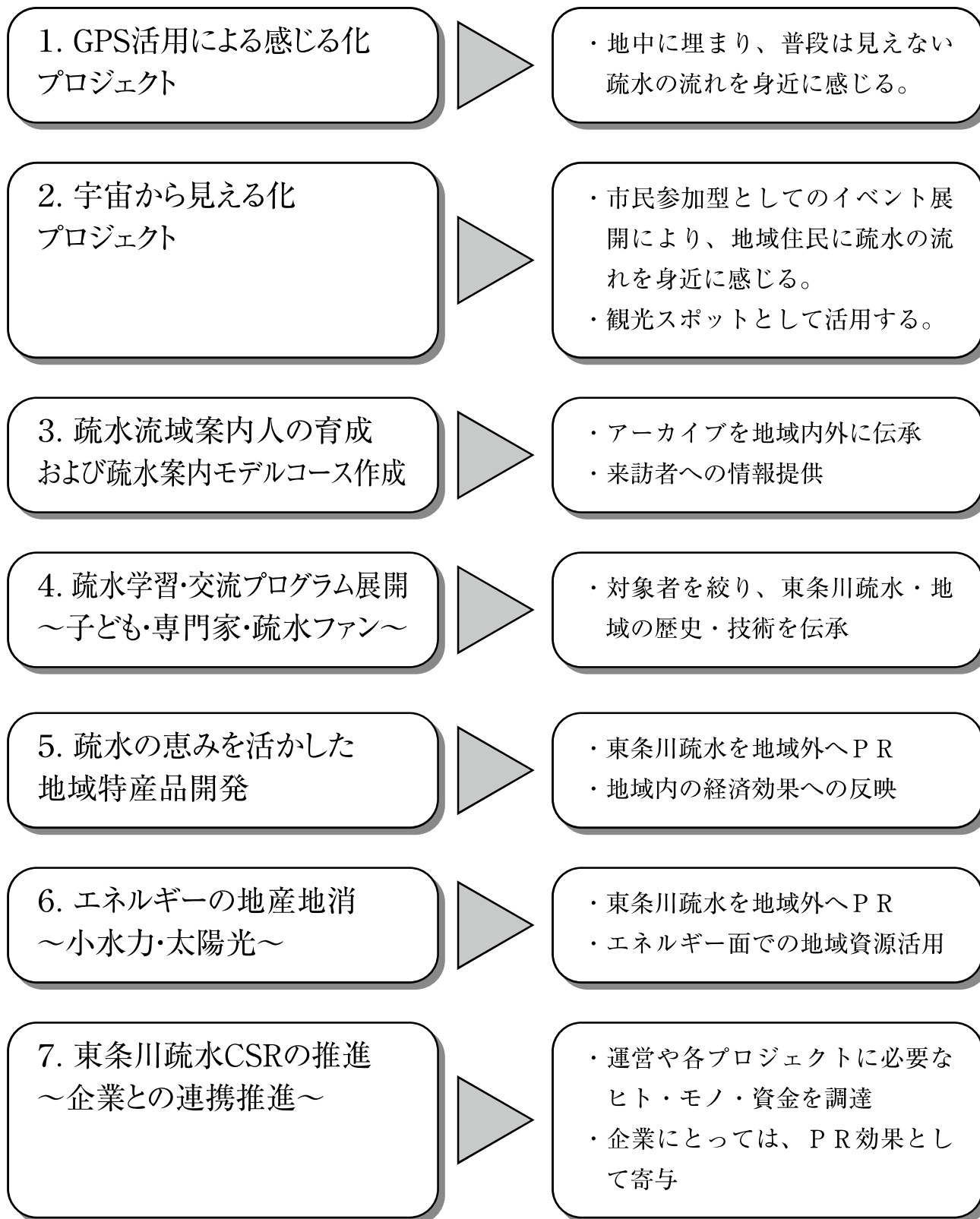
- 地域の記憶を教材としてまとめ、地域の歴史を子どもたちへ伝える補助教材として活用する。
- 大人も地域について学ぶ社会教育のきっかけとする。



3-2 地域の他の取り組みとの相乗効果による普及・波及

東条川疏水の教材としての活用を中心に取り組みを進める中で、将来的に様々な地域資源や活動、取り組みを「ほりおこし・つなげ・むすびつけ」輪を広げ、相乗効果による普及・波及を目指します。

展開イメージ例



第4章 実現に向けたロードマップ

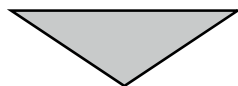
4-1 全体スケジュール

		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
		構想策定	準備会設立	協議会設立		プラットフォームへ						
取組	1 東条川疏水を核として地域の人々が学習の場として活用	骨格検討	プロジェクト立ち上げ・試行				本格実施・継続					
	1-1 資料整理	→	-----→									
	1-2 水系・水利などの把握											
	1-3 聞き書き											
	1-4 教材の作成											
	2 地域の他の取り組みとの相乗効果による普及・波及	案検討	順次整備									
	2-1 GPS	→	-----→									
	2-2 宇宙から見える化	順次整備	-----→									
	2-3 疏水案内人・モデルコース	→	骨格検討			プロジェクト立ち上げ・試行			本格実施・継続			
	2-4 疏水学習											
2-5 特産品開発												
2-6 エネルギー地産地消												
3-5 東条川疏水CSR推進												
運営	運営組織	→	協議会設立準備		協議会運営	プラットフォームへ移行						
	外部組織	プロジェクト試行・応援団募集	→		支援	-----→						
施設整備、サイン、小野市・加東市拠点施設		→	基本・実施設計		着工	サイン一部設置						

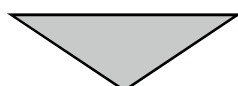
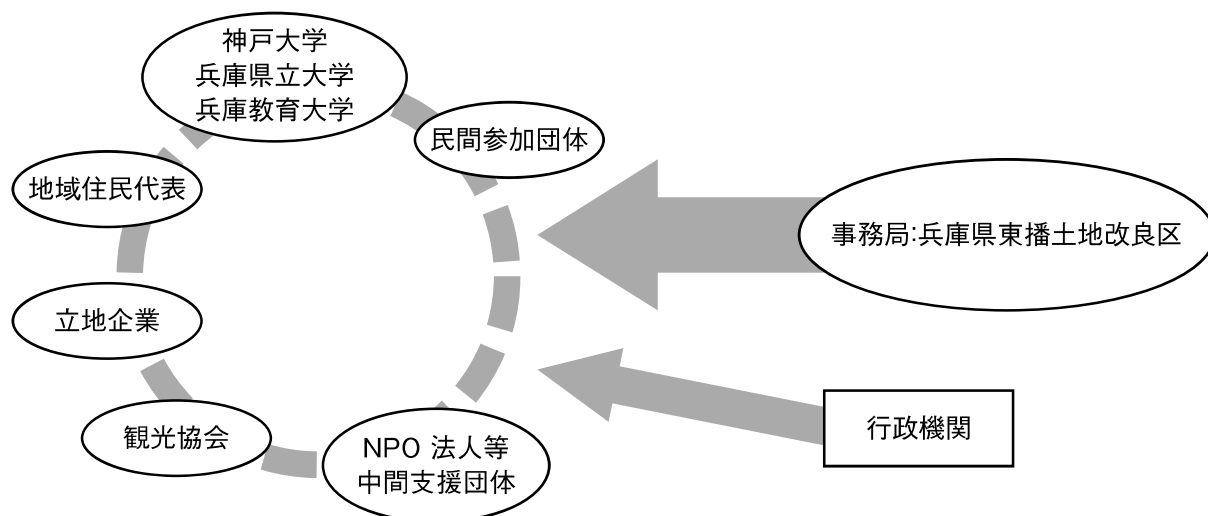
4-2 推進体制

段階的に推進体制を変化させていく。

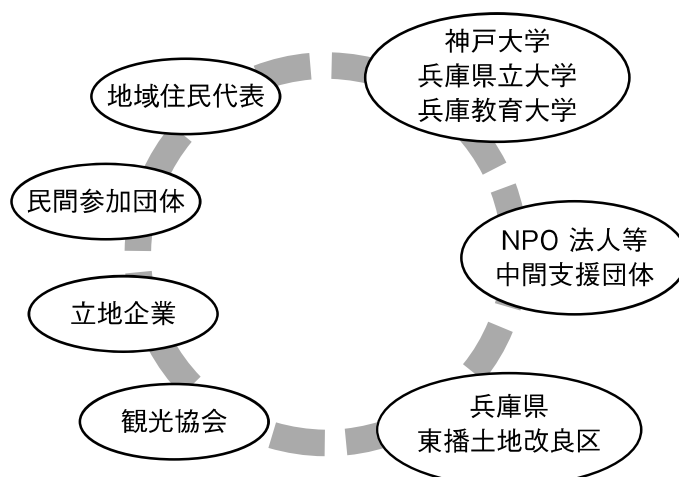
■ ステップ0 (平成23年度) 座談会、研究会



■ ステップ1 東条川疏水ネットワーク博物館運営協議会(仮称)(平成24~26年度)



■ ステップ2 プラットフォームへ移行 (平成27年度~)



参考

1 検討の経過

●東条川疏水ネットワーク博物館研究会

	日時	場所	内容
第1回研究会	平成23年6月8日	加東市東条庁舎	<ul style="list-style-type: none">・東条川疏水ネットワーク博物館構想の概要・座談会の開催と意見集約の方法・今後のスケジュール
第2回研究会	平成23年12月5日	兵庫県社総合庁舎	<ul style="list-style-type: none">・現地視察・東条川疏水ネットワーク博物館構想の推進の経過について・東条川疏水ネットワーク博物館構想の骨子素案について・今後のスケジュール
第3回研究会	平成24年3月5日	JA みのり本店	<ul style="list-style-type: none">・東条川疏水ネットワーク博物館構想について・今後の展開について

●東条川疏水ネットワーク博物館座談会

	日時	場所	内容
第1回 小野市座談会	平成23年8月30日	小野市コミュニティセンター下東条	<ul style="list-style-type: none">・現地視察・趣旨説明・ワークショップ「地域の魅力について」
第1回 加東市座談会	平成23年9月8日	加東市東条庁舎	<ul style="list-style-type: none">・現地視察・趣旨説明・ワークショップ「地域の魅力について」
第2回 小野市座談会	平成23年9月27日	小野市コミュニティセンター下東条	<ul style="list-style-type: none">・前回のふりかえり・ワークショップ「想いをカタチにするために」
第2回 加東市座談会	平成23年10月7日	加東市東条庁舎	<ul style="list-style-type: none">・前回のふりかえり・ワークショップ「想いをカタチにするために」
第1回 合同座談会	平成24年1月26日	小野市コミュニティセンター下東条	<ul style="list-style-type: none">・これまでの経緯およびふりかえり・東条川疏水ネットワーク博物館構想の骨子案について・意見交換「今後の具体的な行動に向けて」

2 この提案をつくるために協力して下さった方々

(平成24年3月31日現在・敬称略・所属は会議時)

●東条川疏水ネットワーク博物館研究会

内田一徳(会長・神戸大学農学部長)/三宅康成(兵庫県立大学環境人間学部准教授)/南埜 猛(兵庫教育大学大学院准教授)/金山友香(関西ウォーカー編集部)/増田和郎(神戸新聞北播総局長)/後藤達夫(JTB神戸支店営業課長・加古川担当)/小池 敏(兵庫県東播土地改良区理事長)/岸本清明(元東条西小学校教諭)/石井正敏(元加東市山国区長)

●東条川疏水ネットワーク博物館座談会 (____は合同座談会参加者を示す)

○アドバイザー 三宅康成(兵庫県立大学 准教授)/南埜 猛(兵庫教育大学大学院准教授)

○小野市

松井英樹(下東条地区区長会代表・中谷町区長)/藤原輝之(下東条地区区長会副代表・菅田町区長)/井上守一(※・脇本町区長)/藤井利昭(下東条地区まちづくり活性化委員会副会長・小田下町区長)/小林 了(※・万勝寺町区長)/岸本英之(※・池田町区長)/井上正俊(※・曾根町区長)/岩城榮造(※・小田上町区長)/増山 裕(※・船木町区長)/小西克己(下東条地区まちづくり活性化委員会会長・福住町区長)/進藤一行(※・中番町区長)/長谷川廣行(※・住吉町区長)/門脇覚巳(※・久保木町区長)/鈴木保二(※・高山町区長)

※各区長は、下東条地区まちづくり活性化委員を兼務

○加東市

尾崎善則(東条地域まちづくり協議会・黒谷)/真海陽逸(東条地域まちづくり協議会・栄枝)/平野隆司(東条地域まちづくり協議会・持鹿谷)/藤原進(東条地域まちづくり協議会・松沢)/宮脇昭夫(東条地域まちづくり協議会・松沢)/松山はつ子(東条地域まちづくり協議会・黒谷(土井集落))/田中孝治(東条地域まちづくり協議会・古家(土井集落))/田中三郎(米田ふれあい協議会・久米(旧嬉野開拓組合))/長谷川鶴吉(米田ふれあい協議会・久米(久米南山水利組合))/藤本春雄(米田ふれあい協議会・久米)/伊藤 隆(米田ふれあい協議会・上久米)/常深貞躬(東条湖ランド赤坂社長)/埜尻善之(東条湖観光)/友安喜計(道の駅「とうじょう」)/石原 豊(加東市観光協会)/今田耕一(加東市観光ボランティア)/森下大輔(加東市教育委員会)

○その他団体

依藤順子(小野市女性団体連絡協議会会長・味彩会)/清水谷善誠(播州清水寺)/今村明浩(プランディレクター)

●事務局

市橋茂樹(小野市地域振興部次長兼産業課長)/久後源一(小野市地域振興部観光課長)/岸本好晃(小野市教育委員会体育保健課長)/西田 猛(小野市教育委員会いきいき社会創造課主幹)/岸本敏弘(加東市地域整備部長)/丸岡 薫(加東市農村整備課長)/松本和久(加東市農林課長)/阿江孝仁(加東市地域振興課長)/芹生修一(加東市企画政策課長)/村上秀昭(加東市教育委員会部長)/山口嘉彦(JAみのり営農企画課長)/藤原浩一(JA兵庫みらい営農振興課長)/服部善典(兵庫県東播土地改良区事務局長)/小林忠生(兵庫県東播土地改良区管理部長)/二位孝夫(兵庫県加古川流域土地改良事務所長)/泉谷裕司(加東農林振興事務所長)/北田 豪(加西農業改良普及センター所長)/山田貴一(北播磨県民局まちむら交流参事)/畑中直樹(㈱地域計画建築研究所(アルパック)取締役計画部長(環境領域)/中川貴美子、森野真子(㈱地域計画建築研究所(アルパック)/山際丈、森田直子、伊藤清明(兵庫県加古川流域土地改良事務所)